

## 目次

### 風水実践のための基礎知識

1. 風水とは？
2. 風水の歴史
3. 風水の分類
4. 巒頭風水（龍・穴・砂・水）
5. 巒頭風水（龍脈・明堂）
6. 巒頭風水（構成要素）
7. 巒頭風水（水泡の種類）
8. 巒頭風水（水泡の種類②）
9. 巒頭風水（穴・龍・過峡）
10. 風水の効果と限界
11. 物質とエネルギー
12. 気
13. 陰陽論
14. 五行説
15. 五行の相関関係
16. 風水五行応用法
17. 八卦
18. 先天・後天八卦
19. 河図先天図
20. 九星
21. 風水循環論
22. コンパスについて
23. 地盤・人盤・天盤
24. 複合羅盤
25. 地盤二十四座山
26. 太極の取り方
27. 宅向の取り方
28. 宅向の取り方②
29. 宅向の取り方③
30. 宅向の取り方④
31. 宅向の取り方⑤
32. 宅向の測定
33. 宅向の測定②

## 立地選定のための風水

34. 巒頭風水の応用
35. 四神相応
36. 風水の山
37. 山の判定
38. 山と五行
39. 山と九星
40. 風水の水
41. 水の種類
42. 水の配置
43. 水の形勢
44. 水龍
45. 水龍②
46. 正神/零神/輔正神
47. 正神/零神/輔正神フォーミュラ
48. 土地
49. 土地の配置
50. 土地の状態
51. 土地の形
52. 土地の因縁
53. 好ましい道路
54. 好ましくない道路
55. 特殊な道路
56. 形煞
57. 形煞②
58. 形煞③
59. 特殊な形煞
60. 特殊な形煞②
61. 特殊な形煞③
62. 特殊な形煞④
63. 形煞の発現条件
64. 化煞

## 建物基本レイアウトのための風水

65. 基本コンセプト・空亡線
66. 排龍訣

67. 排龍訣の応用
68. 排龍訣フォーミュラ
69. 飛星理論
70. 九飛星の特徴とポイント
71. 飛星ルール・コンビネーション
72. 使用可能な飛星
73. 飛星の応用
74. 飛星フォーミュラ
75. 飛星フォーミュラ②
76. 流年/月飛星
77. 日/時運
78. 替星フォーミュラ

#### **飛星チャート（第五運～第九運）**

#### **替星チャート（第五運～第九運）**

79. 飛星チャートの使用方法
80. 特殊な飛星チャート（雙星到向）
81. 特殊な飛星チャート（雙星到坐・旺山旺水）
82. 特殊な飛星チャート（上山下水・合十局）
83. 特殊な飛星チャート（連珠三般卦・父母三般卦）
84. 特殊な飛星チャート（反吟・伏吟）
85. 特殊な飛星チャート（入囚・陰神滿地）
86. 特殊な飛星チャート（火燒天門・風行地上）
87. 特殊な飛星チャート（四一同宮・鬪牛煞）
88. 特殊な飛星チャート（二五交罹死亡並生疾病）
89. 七星打劫・収山出煞
90. 沈氏陽宅三十則
91. 三元派の基本
92. 三元派と三八四爻
93. 三合派の基本
94. 人盤二十四座山
95. 人盤の応用
96. 三元水法（龍門八局水）
97. 龍門八局水フォーミュラ
98. 龍門八局の見方
99. 黄泉八煞
100. 黄泉八煞の理論背景

101. 桃花煞
102. 六害水圖
103. 羊刀水圖
104. 催官水圖
105. 白虎黃泉
106. 輔星水法
107. 輔星水法の応用
108. 五鬼運財法
109. 五鬼運財法応用
110. 輔星・五鬼運財法フォーミュラ
111. 玄空大卦
112. 玄空大卦方位一覧
113. 玄空大卦羅盤
114. 玄空大卦複合羅盤（二十四座山）
115. 玄空大卦複合羅盤（三合羅盤）
116. 玄空大卦応用
117. 玄空大卦応用②
118. 玄空大卦応用③
119. 玄空大卦応用④
120. 玄空大卦応用⑤
121. 城門訣
122. 城門訣フォーミュラ

### **交通デザインのための風水**

123. 飛星の使い方
124. 三元水法の応用
125. 来水去水の判定
126. 三合水法の基本
127. 三合水法の基本②
128. 三合水法の基本③
129. 三合水法の応用
130. 十二長生水
131. 黄泉水・後天水法
132. 地理五訣

### **ラップアップ**

**二十四座山レイアウト参照チャート（第八運）**

## 建物デザインのための風水

- 133. 建物の外観（宅向）
- 134. 建物の外観（エントランス）
- 135. 建物の外観（玄関・屋根）
- 136. 建物の外観（屋根の形）
- 137. 建物の外観（屋根・建物の形）
- 138. 建物の外観（建物の形②）
- 139. 建物の外観（建物の形③）
- 140. 建物の外観（色）
- 141. 建物の外観（フェンス）
- 142. 建物の外観（フェンス②）
- 143. 建物の周囲環境
- 144. 建物の周囲環境②
- 145. 建物の周囲環境③

## インテリアのための風水

- 146. 火元の注意点
- 147. 寝室における注意点
- 148. ベッドの配置
- 149. デスクの配置
- 150. 八宅派風水の基本
- 151. 本命卦早見表
- 152. 本命卦/宅卦方位吉凶チャート
- 153. 宅卦フォーミュラ
- 154. 八宅派の方位
- 155. 八宅派の応用
- 156. 八宅派の応用②
- 157. 八宅派の応用③
- 158. 八宅派の応用④
- 159. 八宅派の応用⑤
- 160. 八宅派の応用⑥
- 161. 八宅派処方例
- 162. 八宅派処方例②
- 163. 簡易飛星システム
- 164. 八宅簡易飛星コンビネーションチャート（東四命）
- 165. 八宅簡易飛星コンビネーションチャート（西四命）

166. 八宅派と簡易飛星を使用した処方例

167. 太歳・歳破・三殺・五黄殺

168. 八宅派と流年飛星を使用した処方例

169. 飛星派

**二十四座山飛星派インテリア参照チャート（第七運～第八運）**

170. 流年/月飛星の影響

171. 宮と飛星

172. 宮と飛星②

173. 宮と飛星③

174. 各飛星による影響を探る（鑑定例①）

175. 各飛星による影響を探る（鑑定例②）

176. 本命卦と飛星

177. 個別の部屋の分析

178. 個別の部屋の分析②

179. 玄空大卦の応用

180. 太陽到山向擢日法

## 風水実践のための基礎知識

### 1、風水とは？

風水は、今から 3000 年以上もの昔に中国大陸で発達したと考えられています。かつて、古代中国人は、村や町そして帝都を築くためのサイト選びに非常に熱心でした。なぜならば、厳選されたサイトこそが、繁栄をもたらすと考えられていたからです。そんな時代背景の中、自然の地勢を観察しながら、最も繁栄のエネルギーをもたらすサイトを選ぶためのさまざまな理論や知識が次第に体系化することとなり、一つの学問体系として成立しました。

風水の理論は、易や陰陽五行論と呼ばれる古代中国で発達した自然エネルギー論を土台としていますが、晋の郭璞（276 年～324 年）の「葬経」には『「気乗風則散 界水則止 古人聚之使不散 行之使有止 故謂之風水」気は風に乘れば則ち散り、水に界せれば則ち止る。古人はこれを聚めて散らせしめず、これを行かせて止るを有らしむ。故にこれを風水と謂う』と記されています。

これは、大地の気（エネルギー）は、風によって散らされてしまい、水によって留めることができるので、風を忌み、水を喜ぶと解釈出来ますが、土地のエネルギーと風や水などの自然現象との関連性が重要視されていたことがわかります。当時風水は、堪輿（かんよ）と呼ばれていましたが、堪輿を知る者は、特に風を回避し、水を集めることに気がつかっていたと考えられます。

風水とは、古代の人々の長年の観察により見出されたさまざまな自然エネルギー理論を土台として体系化された、**住居や帝都にふさわしいパワースポットを選別するための実践的学問**とすることが出来るでしょう。



## 風水実践のための基礎知識

### 2、風水の歴史

風水学が一つの思想体系として成立したのは、前漢（紀元前 206 年 - 8 年）の頃と考えられています。これは、『漢書』に「堪輿金匱（かんよきんぎ）」十四巻が掲載されていることからわかります。

堪輿とは、「堪は天道、輿は地道なり」という前漢の許慎の言葉があらわす通り、風水の別名です。堪輿という言葉は、前漢の「淮南子」にみられ、その後に著された司馬遷の『史記』には「堪輿家」という風水の専門家が存在していたことが語られています。

中国風水学の発展経緯はおよそ四つの時期に分けることができます。

#### **第一期（前漢～東晋 紀元前 206～後 20 年）草創期**

相宅、相墓術と呼ばれ、たぶんに迷信的な色彩の強いものでした。管輅（かんろ）、郭璞（かくはく）、陶侃（とうかん）、淳于智（じゅんうち）等が活躍しました。

#### **第二期（唐代～南宋 紀元 618 年～1279 年）全盛期**

風水学が学問として成立し、巒頭（らんとう）派と理気派の二派の登場は、特記すべき事項です。唐代末期から南宋にいたる時代は、国土が混乱に見舞われ、風水に対する需要が高まった時期と考えられます。

楊均松（ようきんしょう）、曾文瑞（そぶんせん）、廖金精（りょうきんせい）、頼布衣（らいふい）の四大名家のほか、邱延翰（きゅうえんかん）、吳京誠（ごけいせい）、吳京鸞（ごけいらん）、鄒仲容（そうちゅうよう）、傅伯通（ふはくつう）、范越鳳（はんえつほう）、張子微（ちょうしび）らの名家が技を競い合っていました。

また、儒家でも、朱子、蔡牧堂、蔡季通などが、風水を易の観点から研究していたようです。この時期は、特に易経の研究が盛んとなり、易の原理を取り入れながら風水は、楊均松を祖とする四大名家の手などにより、確固とした基盤を築きました。

#### **第三期（元代～清代初頭 紀元 1279 年～1661 年頃）継承期**

風水学は更に発展を続け、明代の劉伯温（りゅうはくうん）などの著名な風水家が輩出されています。劉伯温は、明の朱元璋の軍師として、風水学を駆使しながら、建国に貢献したと言われ、歴史的にも広く名が知られています。『堪輿漫興』『地理青囊経』などの著作



を残しています。

また、明代初頭の幕講僧（無極子）は宋代の『皇極経世書』という古典に基づき、大地の気が20年毎に変化し、180年間で一巡するという、風水では欠かすことの出来ない「元運説」を発表しました。更に、明代の徐善繼・善術兄弟の共著『地理人子須知』、清代初頭の丁丙僕（ていぜいはく）の『風水 祀惑』も著されました。

#### **第四期（清代半ば～現代 1662年頃～）衰退・転換期**

清の康熙帝（こうきてい）による治世で始まるこの時期から、次第に風水学は批判されるようになり、特に清朝六代皇帝乾隆の時代になると、宋代、明代の学問は退けられ、風水学もそれに伴い衰退の一途をたどることになります。

黄宗羲の『図書弁惑』、毛奇齡の『河図洛書原舛編』、胡渭の『易図明弁』、梁啓超の『清代學術概論』などの考証学書において、唐代宋代に生み出された風水学を含む易学を土台とした形而上学は弁証法により、否定されてしまいます。

一方、現代でも参考にされている、風水学の重要文献も著されています。蔣大鴻の『地理 弁正』により、玄空術が説かれたのを発端として、沈竹初の『沈氏玄空学』など、現代においても非常に影響力の高い著作の数々が発表されています。

民代（日本の大正時代～）においては、策群の『宅運新案第一集』、尤惜陰（ゆうせきいん）の『宅運新案第二集』、曾子南の『三元地理講義』などが発表されています。

現代になり、風水学は、「易理派」「巒頭派」「理気派」「三合派」「三元派」「九星派」の六代流派をなすに至りますが、現代の風水家の多くは、学派にこだわることなく、全ての流派を研究した上で、現代的な解釈を加えながら、伝統的風水技法の現代環境における実践に尽力しています。

現在世界レベルで活躍する著名な伝統風水マスターとして、ジョセフ・ユー、レイモンド・ロー、ラリー・サン、ヤップ・セン・ハイ、エバ・ウオン、ジョーイ・ヤップ氏などの名前をあげることが出来ます。

## 立地選定のための風水

### 35、四神相応

巒頭風水では、穴地の後背には父母山が存在し、穴地から見て左側を守るのが青龍砂、右側を保護するのを白虎砂と呼びました。更に、穴地の前方に、水が流れ、案山と朝山の二つの山がエネルギーを飛散から保護してくれることが吉地の条件とされました。

青龍、白虎に加え、後背を保護してくれる山を玄武（大きな亀）、前方をからエネルギーの飛散を防ぐ水や山を朱雀（鳳凰）と名づけ、これらを併せ持つ土地を、「四神相応」の土地と呼び、風水的吉地とみなします。

#### ポイント 吉地の条件

- ・ 前後左右を山に守られている
- ・ 後背左右を山に守られ前方に水が流れる
- ・ 後背を山に守られ、左右前方に水が流れる
- ・ 後背と左右どちらかを山に守られ、残りの二面に水が流れる

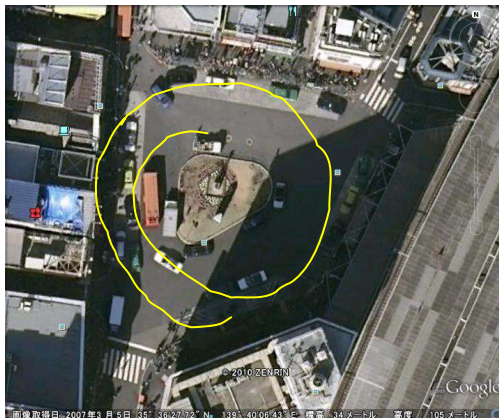
現代風水においては、上記の基本条件に加え、山と水の方位に巡るエネルギーの性質を考慮しながら、真の吉地を求めます。

日本のお寺の多くは四神相応の吉地に建立されています。



## 立地選定のための風水

### 55、特殊な道路



ロータリー

ロータリー：一般的にエネルギーが留まる水の役割を果たすので、風水的には吉とします。



袋小路

袋小路：エネルギーをとどめる水の役割を果たします。直進する道路からの煞気も防いでくれるので風水上好ましいパターンです。

坂の上：緩やかに上る坂の上にある土地、建物（T字路の突きあたりは除く）は、官僚に向くと言われます。急勾配の坂の場合は、エネルギーが到達出来ずに流れ去ってしまうので好ましくありません。

坂の下：緩やかに下る坂の下にある土地、建物（T字路の突きあたりは除く）は、緩やかにエネルギーが流れ込み、商売に向くとされます。

## 立地選定のための風水

### 59、特殊な形煞

単体ではネガティブな影響を及ぼさない場合でも、形勢により煞気を生み出すパターンが存在します。

#### 天斬煞



建物と建物の隙間を正面にして建つ建物は強烈な煞気（風煞）を受けるので、神経痛、リウマチ、風邪などに注意が必要です。

#### 鎌刀煞



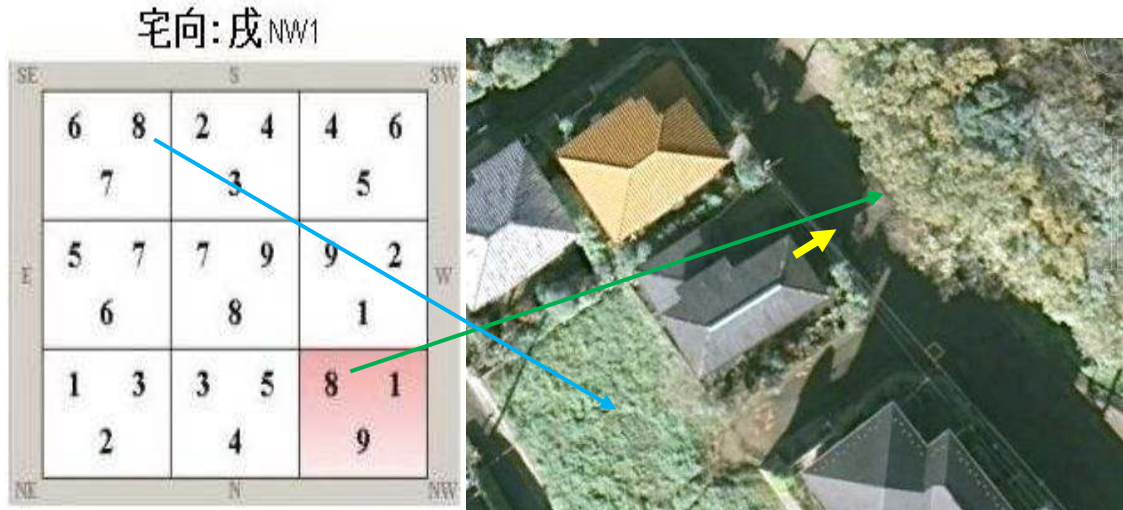
高速道路のカーブ外縁に正面が向く建物は精心衰弱、不眠、不意の怪我、失敗、他人からの妨害を受けると言われています。

同じ高さに位置する部屋を使用する場合は、特に凶意が著しく、注意が必要です。

## 建物基本レイアウトのための風水

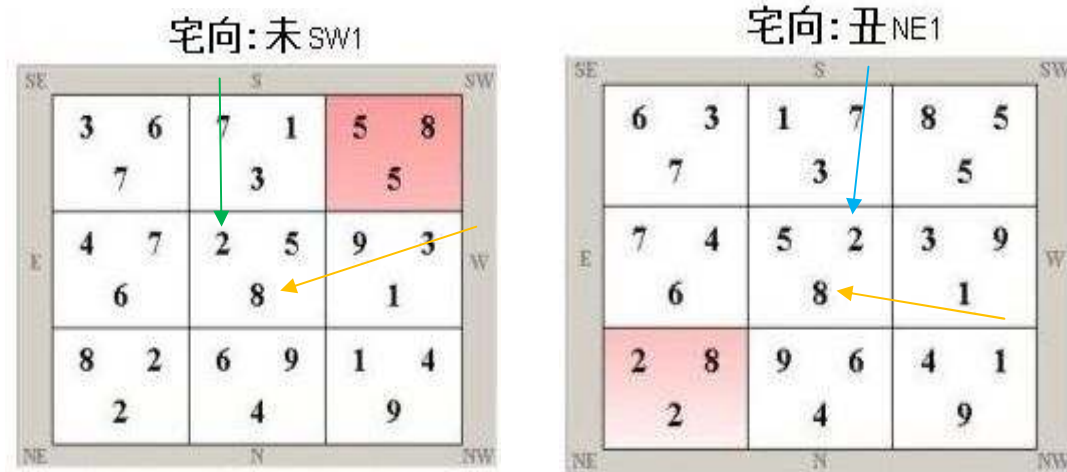
### 82、特殊な飛星チャート（上山下水・合十局）

#### 上山下水



第八運宅向戌の建物です。前面の山が宅向の旺気山飛星を后背の水（平地や道路）が座山旺気水飛星をサポートしています。この飛星で、后背に山、前面に水を見ると、財運、健康運とも衰退する可能性が高まることとなります。

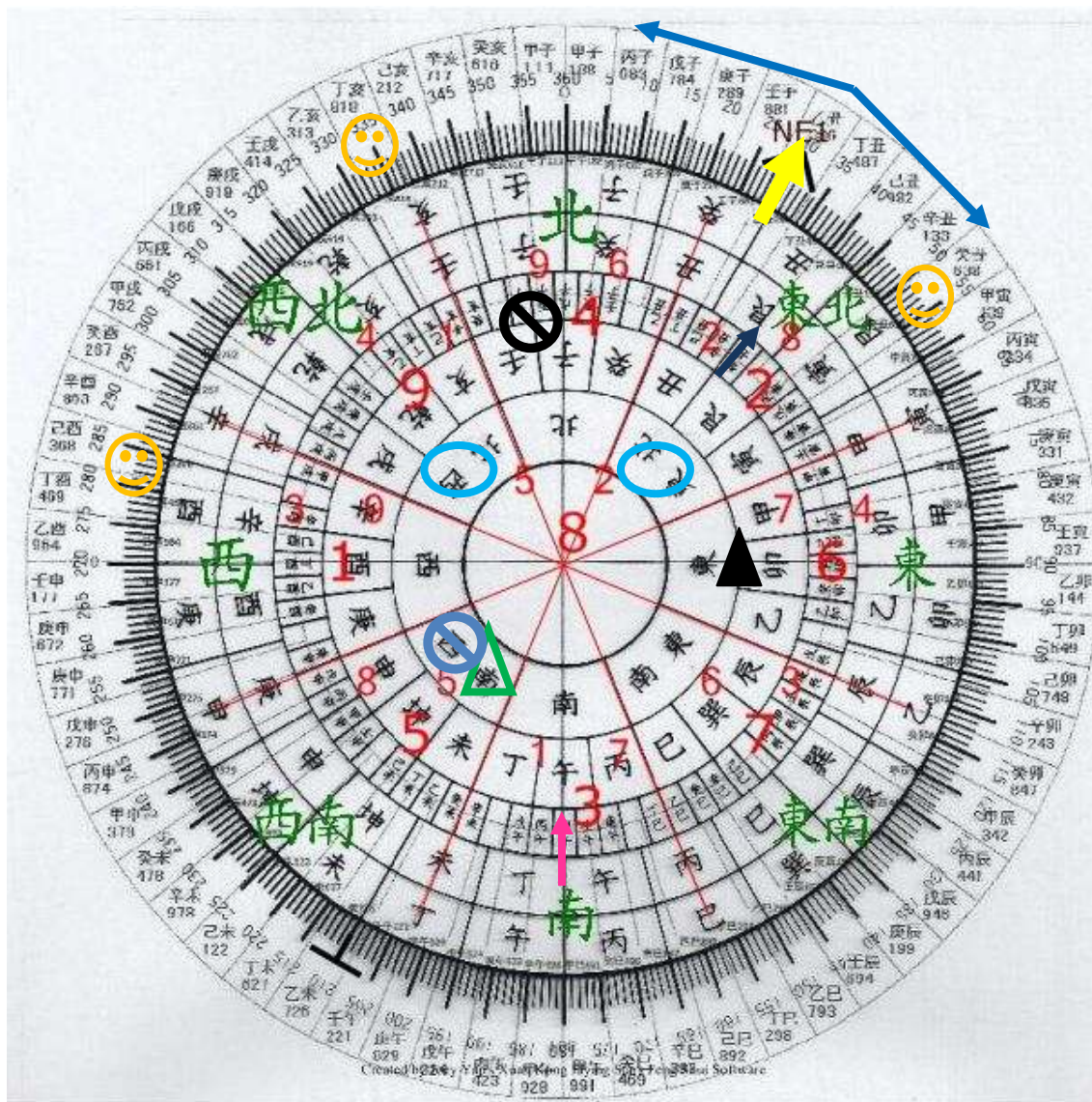
#### 合十局



第八運西南宅向の建物は山飛星と時飛星の合計が全て10となります。后背に山、前面に水があれば、二倍の健康運、名誉運を呼び込みます。第八運北東宅向の建物は水飛星と時飛星の合計が全て10となります。旺気水飛星、山飛星が水と山にサポートされていれば二倍の財運を呼び込みと言われます。

## 二十四座山レイアウト参照チャート

### 第八運 宅向丑（座山未）



形勢	旺山旺向（東北に水、西南に山が必要）、合十局、反吟
ドア（向）/窓	東北（癸丑）、西（己酉）、西北（丁亥）
吉山	西南
吉水/排水口	東北、西北、艮（排水口）
凶水/形煞	西南、午（桃花煞）、卯（黄泉煞）、壬子（黄泉水）
交通	どちらでも良い
コメント	反吟のため、東北の水と西南の山は必須。

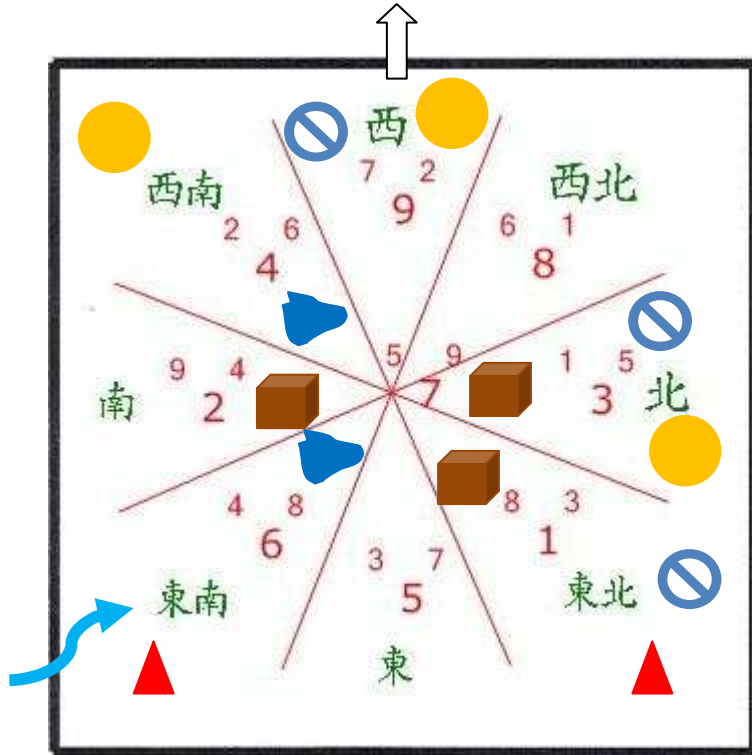
\* ドアの向きは8運を選択。正神方位であれば他の向きでも許容します。水を零神に見ること。

インテリアのための風水

二十四座山飛星派インテリア参照チャート

第七運（1984年2月5日～2004年2月3日完成）

甲宅 宅向庚 247・5—262・5



各エリアの留意点

北	大きな家具。金性処方。ピアノ曲。水不適。静かに使用。
東北	山。大きな家具。火性処方。紫水晶。水不適。
東	戸締りは厳重に。
東南	水。巽の水尚良好。換気。巽のドア（窓）、換気尚良好。火性処方。紫水晶。アクティブエリア向き。広いスペース（明堂）を確保。
南	大きな家具。寝室可。
西南	水。金性処方。瓢箪。寝室不適。零神につき広いスペース（明堂）を確保。
西	金性処方。大きな瓢箪。水不適。
西北	換気。アクティブエリア向き。
補足	東南から旺気を取り入れ全体に流す。伏吟のため東北の山と東南の水は必要。

\* 水：水槽、インテリア噴水など動きのあるものがより効果的。

\* 山：大きな家具、盛り土など。重厚で形の美しいもの。ごつごつした岩などは不適。